

『野生動物の医学』正誤表

該当箇所	誤	正
第1章 26頁左段29-30行	Silver-sulphadiazine	Silver-sulfadiazine (スルファジアジン銀)
第1章 26頁左段31行	betagine	betadine
第2章 34頁表2-4 ウイルス性の疾患の「症状と病理学的状態」	好塩基球細胞質内封入体	好塩基性細胞質内封入体
第4章 51頁表4-2 単位の表記	10 ⁶ ml 10 ³ ml	10 ⁶ /ml 10 ³ /ml
第5章 56頁左段2行目	淡水ガメ, 海ガメおよび陸ガメを合1 わせると全世界で約	淡水ガメ, 海ガメおよび陸ガメを合わせると全世界で約
第5章 61頁左段1行目	ヘスタイレット	スタイレット
第5章 64頁左段23行目	総排泄腔へ環納し,	総排泄腔へ還納
第10章 110頁右段19-20行目	馬結核菌	鳥結核菌
第33章 302頁表33-1 カモノハシの地理的分布	サウスオーストリア	サウスオーストラリア
第33章 右段11行目	肝腫	肝腫瘍
第34章 317頁表34-8	抗菌症	抗酸菌症
第35章 327頁右段13-14行目	<i>Ganglyonema mucronatum</i>	<i>Gongylonema mucronatum</i>
第35章 328頁左段3行目	乳線癌	乳腺癌
第35章 328頁左段6行目	子宮平滑筋肉種	子宮平滑筋肉腫
第37章 353頁左段42-43行目	糞蠕虫属	糞線虫属
第37章 354頁表37-9 用量	単位の記載もれ	mg/kg
第38章 357頁左段31-32行目	費の脳の容量から,	削除
第38章 363頁右段10-11行目	後肢を差し出すように訓練することができる。サフェナ静脈は触知できる大腿動脈の内側に位置している。	後肢を差し出すように訓練することができる。より多くの血液を採取する場合には大腿静脈を利用できる。大腿静脈は触知できる大腿動脈の内側に位置している。
第42章 412頁右段12行目	作するため, 4~6週間にごとに整形	作るため, 4~6週間ごとに整形
第45章 457頁表45-5の検査項目	好中球 (band) 好中球 (分葉核)	好中球 (分葉核) 好中球 (band) が正しい並び
第47章 480頁表47-6「診断」	気管視鏡検査	気管支鏡検査
第47章 480頁右段12行目	クロスポリジウム	クリプトスポリジウム
第49章 505頁左15行目	フェネックでは発情が持続	フェレットでは発情が持続

P77 表 6-8 種のところがワニ類とあるが、クロコダイル類のほうがわかりやすいのでは？

→ご指摘の通りでございます。原書も「Crocodiles」でございます。増刷となりましたら訂正いたします。

P3 右列下から 2 行目 補食動物→捕食動物

→増刷となりましたら訂正いたします。

P4 右列下から 7 行目 補食性魚種→捕食性魚種

→増刷となりましたら訂正いたします。恥ずかしいミスでございます。

P5 左列 12 行目 胃に持つこと→胃に持つこと？

→ご指摘の通りでございます。「Four fused teeth in the jaws and a ventral diverticulum of the stomach inflatable with water or air are characteristic of these species.」が原文でございます。増刷となりましたら訂正いたします。

P5 左列 15 行目 ベースペア→塩基対 のほうが一般的だと思うのですが、魚類学の世界ではこちらがいいのでしょうか？

→訳者に問合せます。改めて連絡申し上げます。

全編でプラジクアンテルとプラジカンテルの統一がされていません。

→申し訳ございません。増刷となりましたら統一いたします。

P20 右列 25 行 甲状腺種→甲状腺腫

→増刷となりましたら訂正いたします。

P24 左列 26 行 補食→捕食

→増刷となりましたら訂正いたします。

P26 左列 19 行

betagine → betadine betagine はネットで調べてもなさそうでした。ちなみにその上の行の panalog は panolog も panalog も掲載があって、どっちの製品もあるようですね。

→ミスでございます。原書は betadine でした。Panalog は原書通りでございます。その上の Silver-sulphadiazine は Silver-sulfadiazine のミスでした。スルファジアジン銀に訂正いたします。正誤表に掲載いたします。

P302 表 33-1 カモノハシの分布 サウスオーストリア→サウスオーストラリア

→正誤表に掲載いたします。

P302 右列 5 行 毒性分→毒成分

→増刷となりましたら訂正いたします。

P303 (304) 左列 3 行 10-70 の小型の・・・の単位は原書にはありますか？ g とか匹とか。

→原書は「A suitable captive diet may include 10 to 70 small freshwater crayfish (18 cm), 50 g mealworms, 50 to 120 g・・・」でございます。流れからいうと「g」のようですが。申し訳ございません。このままとさせていただきます。

P308 左 13 行 Amblyomma Papuanum と同 15 行 Odontocarus Echidnus 種名は属名は大文字、種小名は小文字で始まるので。

→ミスでございます。増刷となりましたら訂正いたします。

P308 右列 11 行 肝腫→肝腫だと肝臓が腫れているだけ。文面だと肝腫瘍だと思われれます。

→「hepatoma」でございます。ご指摘の通り訂正いたします。正誤表に掲載いたします。

P352 表 37-6 全腸炎の疫学 糞便の接種→糞便の摂取

→増刷となりましたら訂正いたします。

P353 左列 7 行 ネットイシマカ→ネッタイシマカだと思うのですが、ネットで調べるとネットイシマカというものもいるのか、載っていますが、原書ではどうでしょう

→「*Aedes aegypti*」でございました。ネッタイシマカでございます。増刷となりましたら訂正いたします。

P353 左列下から 5 行 糞蠕虫属→糞線虫属：糞蠕虫属の有無を知りませんが、*Strongyloides* ならこれだと思います。

→ご指摘の通りでございます。正誤表に掲載いたします。

P354 表 37-9 用量 単位が書いてないが、原文でもそうでしょうか？

→mg/kg でございます。正誤表に掲載いたします。

P355 左下から 12 行 アルファトキシン→アフラトキシン：アルファトキシンも存在するが、文面からはこちらかなと思うのですが、原文の確認をお願いします。

→「*alphatoxin poisoning*」でございました

P355 左列下から 7 行 乳線→乳腺

→増刷となりましたら訂正いたします。

P357 左列下から 9 行 費の脳→これはよくわかりません。

→「As the capability of vision improves, the sense of smell decreases and the snout becomes shorter compared with other mammals.」「費の脳の容量から、」を削除いたします。大きなミスです。申し訳ございません。正誤表に掲載いたします。

P363 右段 10 行

サフェナ静脈は大腿動脈の内側に位置しているとあるが、解剖学におかしいと思います。

原文はどうですか？

→この文の前に「Larger blood samples can be collected from the saphenous vein.」という文があり訳抜けでございました。申し訳ございません。サフェナ静脈は The vein の訳でございます。the は大腿静脈を指していると存じます。訳者に連絡をして訳をいただき正誤表に掲載する予定でございます。

P366 表 38-5

Herpes の症状 7～10 に血で治癒→7～10 日で治癒

診断 核内封入対→核内封入体

→なんというミス。申し訳ございません。増刷となりましたら訂正いたします。

SAB の疫学 D7 とは？

→原書に記載はありませんでした。増刷となりましたら削除いたします。

Medical lake の診断 核内封入対→核内封入体

→申し訳ございません。増刷となりましたら訂正いたします。

P371 次頁へ続くと本文が重なっている

→申し訳ございません。増刷となりましたら訂正いたします。

P373 左段 3 行 デーレ封入体→デーレ小体が一般的だと思うのですが、辞書にデーレ封入体ってありますか？

→確かにご指摘の通りかと存じます。訳者に問い合わせますが、場合によってはこのままとさせていただきます。

P378 表 38-9

最も右端に種名がない

→申し訳ございません。Chlorocebus の訳でございます。サバンナモンキーでしょうか。訳者に確認して正誤表に掲載いたします。

リスザルの発情検査 血液ホルモン検濃度→検が意味不明

→申し訳ございません。「blood hormone levels」の訳でございます。「検」は不要でございます。増刷となりましたら訂正いたします。

マカクの妊娠診断 包含体→抱合体

→申し訳ございません。増刷となりましたら訂正いたします。

ヨザルのエストロゲンとプロジェステロンの非妊娠 $\mu\text{g}/\text{mg}$ クレアチニンの意味がわからないのですが、原文でもこうなっていますか？

→右が原書そのままでございます。何でございましょうか。訳者に尋ねてみます。

Esterone
700—
4000 ng/ml
(plasma
levels);
urinary
esterone
peaks at 49.2
 $\mu\text{g}/\text{mg}$
creatinine.
—
—
2—277.8 ng/ml
(plasma
levels),
urinary
pregnenediol
19.8 $\mu\text{g}/\text{mg}$
creatinine

1.

P363 右段 10 行 サフェナ静脈は大腿動脈の内側に位置しているとあるが、解剖学におかしいと思います。

との質問を受けました。訳と原文は以下の通りでございます。

血 液

健康な動物においては体重の 1% までの血液を、前腕の腹側に位置する橈側皮静脈（犬や猫と同様）や後肢の背側に位置するサフェナ静脈などの体表にある静脈から採取することができる。この静脈はカテーテルを留置するのに適した血管である。マカク属などのサルはサフェナ静脈から採血するために、後肢を差し出すように訓練することができる。サフェナ静脈は触知できる大腿動脈の内側に位置している。小型のマモセットやタマリンでは、この静脈は透けてみえる。動脈血は大腿動脈から採取できる。ピグミーマモセットやマモセット、あるいはタマリンや新生子などではサイズが小さいため、診断用の血液を採取することは難しい。

Blood

Blood samples of up to 1% of the body weight in healthy specimens may be collected from superficial veins including the cephalic vein located on the ventral forearm (similar to the domestic dog or cat) and the saphenous vein located on the lateral back of the calf. This vein is also a good site for placing an indwelling catheter. Primates such as macaques can be trained to present their legs for blood collection from the saphenous vein. Larger blood samples can be collected from the femoral vein. The vein is located medial to the palpable femoral artery. In small marmoset and tamarins, this vein can be visualized. An arterial sample can be collected from the femoral artery. Because of their small size, some primates such as the pygmy marmosets, marmosets, or tamarins and infants make collecting blood for diagnostic tests difficult.

「Larger blood samples can be collected from the saphenous vein.」の訳が抜けているかと存じます。「The vein」は「大腿静脈」と訂正してよろしいでしょうか。また Larger blood samples can be collected from the saphenous vein. を訳していただきたくお願い申し上げます。

2.

P373 左段 3 行 デーレ封入体→デーレ小体が一般的だと思うのですが。

とのご指摘でございます。いかがでございましょうか。

3.

P378 表 38-9 ヨザルのエストロジェンとプロジェステロンの非妊娠 $\mu\text{g}/\text{mg}$ クレアチニンの意味がわからないのですが右が原文でございます。クレアチニンについて何かコメントがございましたらお願い申し上げます。

Esterone
700—
4000 ng/ml
(plasma
levels);
urinary
esterone
peaks at 49.2
 $\mu\text{g}/\text{mg}$
creatinine.
—
—
2—277.8 ng/ml
(plasma
levels),
urinary
pregnanediol
19.8 $\mu\text{g}/\text{mg}$
creatinine

4.

P378 表 38-9 最も右端に種名がない

Chlorocebus でございます。もしかしたら編集作業中に消してしまったのでしょうか。申し訳ございません。訳をお願い申し上げます。